

未来は自ら拓くもの

山紫海碧

有銘幼小中学校
学校便り 88号
山紫に海碧く
H27.10.29



「ねえ、愚華・盲導犬のパピーウォーカーをやってみない？」
動物好きの母がそう言い出したのは、私が中学生になったばかりの頃でした。パピーウォーカーというのは、将来、盲導犬として訓練する予定の子犬を大きく育てるまで育てる人のことです。
母同様、動物が大好きな私は、すっかり、乗り込んで調べてみました。
その結果、我が家は残念ながら、条件に合わず、パピーウォーカーを引き受けることはできませんでした。
しかし、私は、それをきっかける人、動物と共に病んでくれる人を癒やすアニマルセラピストという職業の存在を知りました。
大好きな動物と一緒に困っている人の手助けができる、という点にとても興味を惹かれました。

そして、真剣にアニマルセラピストへの道を探り始めました。
パソコンやフェイスブックで、セラピストになるための必要な資格や学べる場所や学校について調べてみたところ、残念なことになりました。
「日本ではアニマルセラピストという職業はまだ、ほとんど、普及していない、という現状でした。」
一方、アメリカやヨーロッパの国々にはアニマルセラピストの研究機関があり、セラピストになるための調査研究がなされていて、その育成方法も充実していることがわかりました。
そこで、私は、(アニマルセラピストになるためには、外国で学ぶ必要がありそうだ。)と思い、(そうなる)、英語の習得が必須条件だな。)と決めました。
私が、中学校一年生で、準二級レベルの単語やフレーズも登場するストーリーテリングコンテストに挑戦したのも、そのためのステップになると考えたからです。

それでは、父の言葉でくれたのは、父の言葉で私の父は国際弁護士として、上海を拠点に世界中を駆け巡って仕事をしています。
「仕事の武器は英語だ。どんな仕事に就いたとしても、これからの時代は、英語が必要になるよ。」というのが、日本語を母国語のようにしゃべる中国人の父の口癖なのです。
二年生に進級した私は、今度は、東村のアメリカ短期留学生試験に挑戦しました。
そして、幸いにも合格し、去る七月、憧れのアメリカの地を踏むことができました。
「百聞は一見に如かず」という諺がありますが、この留学は、まさに、この諺を実感させる体験となりました。
「ワシントン州立大学」の先生は、日本と違って、自分から質問しない生徒に、わざわざ教えてはくれません。
また、ショッピングをしていても、ちゃんと意思表示をしないと欲しい洋服は手に入らないので、たった三週間の留学では



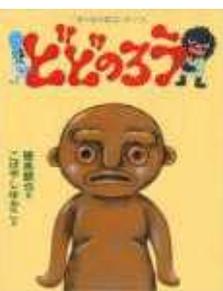
読書月間

校長先生の読み聞かせは、小学校が、なべぎきょう、えとこ、どこのろう、びつぼの濁点、ええところ、鉢かつぎ、でした。
今回の目玉は、紅愛さん、梨央さんによる朗読を録音して、読み聞かせを行ったこと、
「おとぎそうし」の物語から、日本のシンデレラと呼べられている「鉢かつぎ」を紹介したことです。
次は、光興さんや小学生の放送委員を予定しています。
次回、十二月は、「落語」の笑いで一年を締めくくりたいと思います。お楽しみに。

英語がペラペラになっただけでも、アニマルセラピストの勉強ができたわけでもありません。
しかし、私は「自ら、周囲に働きかけ、挑戦しなければ何事も始まらない。」という姿勢を学んで帰国したつもりです。
この学びを糧として、いつの日か私は、「英語を母国語のように話すアニマルセラピストになる」という未来を切り拓いていきます。自らの積極的なチャレンジです。
二年 梅木愚華
(国領地区意見発表大会 東村代表 原稿より)

おすすめの本の紹介

お屋の放送で、一年生による、おすすめの本の紹介がありました。
はるとさんのおすすめ本は、「キャバツがたべたいんです」。ちようちよが八百屋のおじさんになったので、おもしろかったそうです。
あんずさんおすすめ本は、「かごねこ」です。



かごねこが、すいせいの花をかいて、かわるがわる、その